

【小樽青色申告会連合会会長賞】

この国の幸福度

小樽市立菁園中学校 一年

望木 結夏理

税金を納めることは法律で決められている国民の三大義務の内の一つだ。私は消費税や所得税など、約五〇種類もある税金を払う意味はあるのか、とか私たちにはどんな得があるのだろう、というように考えていた。

しかし、ついこの前まで新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言で私たち小中学生や高校生、さらには大学生や社会人までもが約一ヶ月間、家の中にいる日々が続いていた。

そんな中、政府は一人当たり一〇万円の給付金と、一住所当たり二枚、「アベノマスク」と呼ばれる布製のマスクを順次配布するとした。このような国の行動に対して国民の意見はさまざまで、「布製のマスクはいらないから給付金をもっと増やして欲しい」という意見や「マスクが丁度なくなってしまうので欲しかったのでうれしい」、「一〇万円も貰えたのでよかった」などの声もあった。私はこのことについて調べていて、一〇万円の給付金と「アベノマスク」はこの人たちも含む国民がいつも払っている税金が使われているということがわかった。さらに、緊急事態宣言中、休業要請などの自治体の措置に

協力し、要件を満たした事業者などには自治体別で休業協力金が貰えたり、売上が大幅に減り、家賃、地代の負担軽減が必要な中小企業や個人事業主は最大一〇〇万円の助成金がもらえるということを知った。このお金にももちろん税金が使われていて、私はふと、日本の収入と支出がどれくらいなのが気になり、調べてみることにした。すると、国の全体の収入は一〇一兆円で、約六割が税金からの収入、残りの約四割は国の借入とその他の収入になっており、所得税が約二〇兆円、消費税は約一九兆円と、私たちの身近な二つの税金が収入の約六割になっていることがわかった。逆に、国の支出のうち最も大きなものが年金、医療、介護等の社会保障費で約三四兆円となっている。次いで、国債費（借金返済）が約二三・五兆円となっている。災害対策や道路整備などの公共事業費と学校教育の文教・科学振興費を合わせても約一三兆円と、それほど大きな割合ではない。主な税金の使い道としては年金や医療などの社会保障費用と国債費が主で、六割近くまでなっていることがわかった。

もちろん、税金は誰もが払いたいと思って払っている訳ではないだろう。それでも、私たち国民がきちんと払った税金は国のためにも、そして私たちのためにもなっていると私は思えた。日本は「重税国家」といわれている。確かに、私たちの一番近くに感じる消費税は平成元年に三パーセントから始まり、去年の一〇月には飲食料品や新聞などを除き、一〇パーセントになった。「高い」と思うかもしれない。だが、「高い」税金を払うだけの恩恵を受けていると感ずることができれば、幸福度は日本も十分なのではないだろうか。